

5. リハビリテーション分野及び予防医療分野における 海外人材育成事業

学校法人 国際医療福祉大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナム及びミャンマー両国共に、経済発展に伴い生活習慣病罹患者が増加し、予防医療への関心が高まりつつある。またリハビリテーション分野においては、両国とも理学療法士は存在するものの、作業療法士や言語聴覚士については独立した養成課程が存在せず、理学療法士がそれらの役割を兼務しているのが現状である。両分野における人材育成とサービス内容・質の向上が強く求められている。

【活動内容】

本事業は、本学とすでに協定を締結しているベトナム及びミャンマーの大学・病院等を対象として、リハビリテーション分野及び予防医療分野での人材育成を目的として研修員の受入及び専門家の派遣を行い、わが国の最先端の医療サービスに関する技術・知識等の技術移転を目的として実施する。

【期待される成果や波及効果等】

本事業により期待される成果は、本学の大学・大学院の教員及び附属病院の医師・技師・看護師等による指導を通じて、ベトナム及びミャンマーのリハビリテーション分野、予防医学分野双方へのわが国の最先端の知見や技術を移転することであり、具体的には、ベトナム及びミャンマーの専門家を対象としたリハビリテーション及び予防医学の短中期の実技研修により技術移転を図るほか、ワークショップなどを通じて、実技研修の参加者のみならず対象となる病院全体への技術と知見の移転を実現することである。

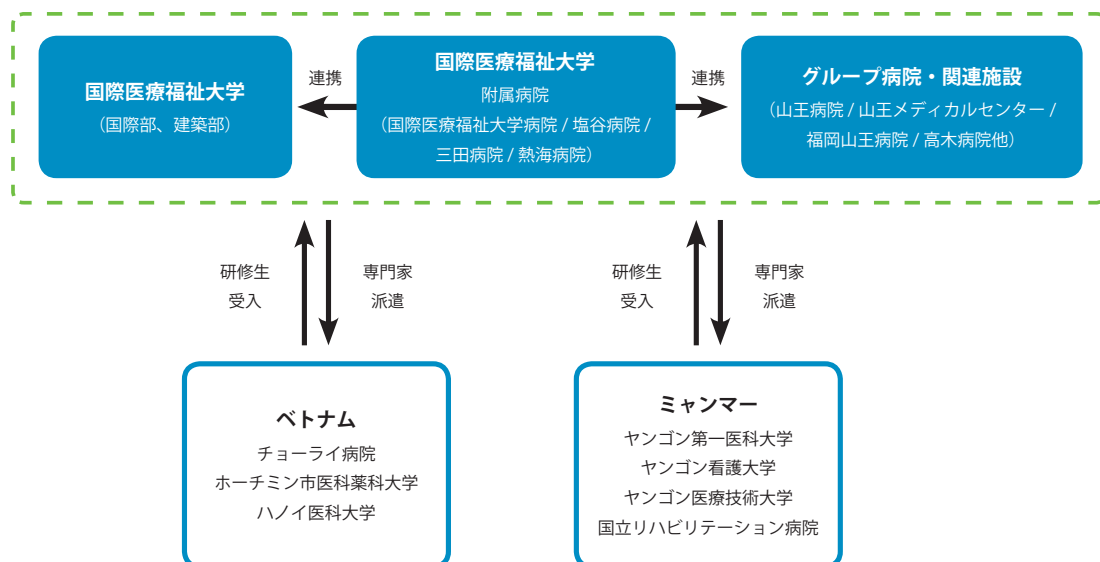
<研修実施結果>

専門家派遣

- ・ベトナム
2017年8・11・12月/2018年2月（延べ26名）
- ・ミャンマー
2017年8月（延べ4名）

研修生受入

2017年5月/2018年1月2月（延べ7名）



ベトナムとミャンマーでのリハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業についてご報告します。本学は、開学以降、アジア諸国を対象とした医療人材の育成に積極的に取り組んでまいりましたが、近年は特にミャンマーとベトナムを重点国と位置付けまして、積極的に医療人材の育成を進めております。今年度は、ベトナムにつきましては予防医療分野、ミャンマーにつきましてはリハビリテーション分野の人材育成事業を実施しました。

本学では両国の医療系大学や国立病院等と交流協定を締結し、その協定に基づき、協力を実施しております。特にベトナムは、今年度は予防医療分野での協力を実施したのですが、チョーライ病院とは既に20年以上の交流がありまして、専門家の派遣や研修医の受け入れ等を実施しております。現在、チョーライ病院からの要請に基づき、日本型の人間ドックを提供する健診センターの設立を進めております。先ほどメディアヴァ社からバックマイ病院の健診センターのお話がありましたが、こちらは南部の基幹病院であるチョーライ病院からの提案に基づきまして、本学グループで提供する人間ドックサービスをベトナムで提供するため、4年前から健診センターの設立準備を進めてきました。政府の許認可関係等にかかなり時間が掛かりましたが、ようやく一連の手続きが完了しまして、本年の中頃、7月ぐらいにオープンを予定しております。そのような中で予防医療分野の人材育成がチョーライ病院において急務であるということでしたので、本事業を実施しました。

ミャンマーでは、リハビリテーション分野の協力を行いました。本学はリハビリテーション関係の学部を多数有しているということと、関連の福祉施設等も多数有しているということで、それらの資源を活用しました。協定関係にあるヤンゴン第一医科大学、ヤンゴン看護大学、ヤンゴン医療技術大学、国立リハビリテーション病院とも密接な関わりがありまして、これらを所管する保健スポーツ省とは覚書を締結しておりますので、その関係に基づきまして事業を実施しました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院人間ドックセンター 専門家派遣 ①

- 分野： 予防医療分野
- 派遣者： 放射線科医師 2名：大友 邦(国際医療福祉大学学長)、桐生 茂(国際医療福祉大学病院)
神経内科医師 1名：天野 隆弘(国際医療福祉大学副学長)
内視鏡医師 2名：森下 鉄夫(山王メディカルセンター)
看護師 1名：高橋美由紀(山王メディカルセンター)
事務職員 3名：加瀬文彦、山崎薫子、グエン・ベト・クエン・チー(いずれも、国際医療福祉大学国際部)
- 実施期間： 2017年8月7日～8月18日 (12日間)
- 実施場所： ベトナム・国立チョーライ病院
- 主な研修内容(講義・実習)：
①放射線科・内視鏡・神経内科に係る人間ドックにおける検査・診察
②人間ドックにおける看護師業務
③人間ドックにおける人員体制 ほか

国際医療福祉大学

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院人間ドックセンター 専門家派遣 ②

- 分野： 人間ドック施設の建築・管理運営
- 派遣者： 建築専門家 1名：佐々木邦彦(国際医療福祉大学建築企画部長)
事務職員 2名：加瀬文彦、グエン・ベト・クエン・チー(いずれも、国際医療福祉大学国際部)
- 実施期間： 2017年11月7日～11月11日 (5日間)
- 実施場所： ベトナム・国立チョーライ病院
- 主な研修内容(講義・実習)：
①人間ドックセンターの施設設計に係る技術指導
②人間ドックセンターの建物建築・内装施工に係る技術指導
③ベトナムにおける日本型人間ドックの運用 ほか

国際医療福祉大学

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
放射線科、内視鏡検査、内科診察、看護師業務、人間ドックの運用等の分野において、日越比較を行うとともに、検査手技や手順に関する技術指導、意見交換等を通じて、日本型の人間ドック運営に必要な医療分野での基礎知識・技術、事務分野での基本事項等を教授することができた。これにより、2018年6月にホーチミンにて開設予定の人間ドックセンターにおいてこれらの知識・技術が活用されることが期待される。




人間ドックにおける人員体制に係る意見交換
研修実施結果報告

国際医療福祉大学

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
建設中の人間ドックセンターにおけるハード・ソフト両面での詳細な指導が行え、現在進められている建築・内装施工について、質の高い設備の開設が期待される。また、ベトナムにおける日本型人間ドックの運用について、現地における健診施設の取り組みを踏まえた意見交換を行うことができ、2018年6月にホーチミンにて開設予定の人間ドックセンターにおいてこれらの知識・技術が活用されることが期待される。





チョーライ病院既存設備の確認
人間ドックセンター建築現場の確認
建築・内装担当者との協議

国際医療福祉大学

まずはベトナムの事業から報告させていただきます。専門家派遣を4回実施しました。1回目は、放射線、神経内科、内視鏡の医師を合計5名、看護師、人間ドックの運営指導を行う事務職員を、8月7日から12日間、チョーライ病院へ派遣しました。

2回目は、建築・管理運営に関連した派遣でした。既に人間ドックセンターの建築はかなり進んでおり、3月で建築完了ということだったのですが、その直前の確認について先方から強い要請がありましたので、11月に本学の建築の専門家のほか、人間ドックの運用に関わる事務職員を5日間派遣しました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院人間ドックセンター 専門家派遣 ③

- 分野： 予防医療分野
- 派遣者： 予防医学・神経内科医師 1名：天野 隆弘(国際医療福祉大学副学長)
看護師 1名：高橋美由紀(山王メディカルセンター)
事務職員 3名：加瀬文彦、山崎薫子、グエン・ベト・クエン・チー
(いずれも、国際医療福祉大学国際部)
- 実施期間： 2017年12月18日～12月23日 (6日間)
- 実施場所： ベトナム・国立チョーライ病院
- 主な研修内容(講義・実習)：
①予防医学の基礎知識
②日本型健診センターの運営
③人間ドックセンターにおける人員体制
④人間ドックセンターにおけるITシステムの導入 ほか



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
予防医学の基礎知識や日本式健診センターの運営についての講義、人間ドックセンターにおける人員体制や人間ドックセンターにおけるITシステムの導入に関する講義・意見交換を通じて、日本式の人間ドック運営に必要な基礎知識・ノウハウを教授することができた。これにより、2018年6月にホーチミンにて開設予定の人間ドックセンターにおいてこれらの知識・ノウハウが活用されることが期待される。



予防医学の基礎知識等に関する講義



日本型健診センターの運営研修における意見交換



3回目の専門家派遣は、先方の人間ドックセンターで勤務する約50名の職員を対象に、予防医療の概念について説明して欲しいという要請がありましたので実施しました。日本の人間ドック学会でも中心的役割を果たされている本学の天野医師と、現地で実際に指導にあたる看護師、ドックの運用関係の事務職員を12月に6日間派遣しました。

スライドの写真は、予防医学の基礎知識等に関する講義の様子です。多数の人が集まりまして、活発な意見交換が行われました。

専門家派遣の4回目は、まだカバーしていなかった病理、検査部門に臨床検査技師の派遣要請がありましたので実施しました。また、人間ドックの実質的な運用が始まるということで、物品調達、医療機器の管理の関係、調合剤の調達等に関して本学のやり方等を講義して欲しいという要望がありましたので、専門家を派遣しました。2018年2月に7日間で実施しました。特に病理については、人間ドックで何かが見つかった時の対応をどうするかということまで踏み込んで準備しています。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院 研修員受入①

- 分野： 予防医療(看護)分野
- 研修員： <看護師：1名>
Ms. Nguyen Thi Hien (チョーライ病院 看護師長)
- 実施期間： 2017年6月19日～6月23日 (5日間)
- 実施場所： 山王メディカルセンター他
- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
①人間ドックの結果集の作成について
②人間ドック受診当日の流れについて
③人間ドックのフロア案内について
④生理検査・計測について
⑤内視鏡検査における看護師業務について ほか



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
見学や実務研修により日本式の人間ドックの概要を教授することができ、チョーライ病院における人間ドックセンター開設後に看護師が担う役割についての認識を深めることができた。また、内視鏡検査等、個々の検査現場における看護師の役割について、実際の検査現場の見学及び講義等を通じて、技術やサービスに関してのスキルアップへの意欲を高めることができた。



人間ドック結果集の作成研修



人間ドック当日の流れに関する研修



研修医の受け入れですが、こちらも4回実施しました。1回目は看護分野で6月に5日間行いました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院人間ドックセンター 専門家派遣 ④

- 分野： 予防医療分野
- 派遣者： 病理医師 2名：森 一郎(国際医療福祉大学三田病院)、
潮見隆之(国際医療福祉大学医学部)
臨床検査技師 2名：大澤 進(国際医療福祉大学成田保健医療学部医学検査学科長)
工藤芳子(" 医学検査学科准教授)
事務職員 2名：大塚浩幸、山本岳大(物品調達・管理分野)
事務職員 3名：加瀬文彦、山崎薫子(人間ドック管理運営分野)
- 実施期間： 2018年2月2日～2月8日 (7日間)
- 実施場所： ベトナム・国立チョーライ病院
- 主な研修内容(講義・実習)：
①人間ドックにおける病理検査
②人間ドックにおける生化学検査業務
③人間ドックにおける資材調達業務
④今後の人材育成に向けた研修計画 ほか



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
人間ドックにおける病理検査・生化学検査業務に係る技術指導を行うとともに、人間ドックにおける資材調達業務等実質的な業務指導を行ったことにより、人間ドックセンターの運営管理に必要な不可欠となる技術・知識を教授することができた。また、今後の人材育成に向けた計画についても意見交換を行ったことにより、今後センターのキーパーソンとして活躍する人材の育成が期待される。



病理医師間での意見交換



チョーライ病院健診部の現況調査結果報告会



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院 研修員受入②

- 分 野： 予防医療(総合診断)分野
- 研修員： <医師：2名>
Dr. Le Thi Thuy An (医師・健診科副科長)
Dr. Pham Le Vi (健診科医師)
- 実施期間： 2018年1月29日～2月3日 (6日間)
- 実施場所： 山王メディカルセンター他
- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
①日本型人間ドックにおける総合診断医の業務
②人間ドックの結果判定
③日本型人間ドックにおける結果報告書
④人間ドックにおけるITシステムの活用
⑤ベトナムにおける日本型人間ドックセンターの運用について



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院 研修員受入④

- 分 野： 予防医療(看護)分野
- 研修員： <看護師：3名>
Ms. Nguyen Thi Thuy Van (チョーライ病院健診科看護師)
Ms. Pham Thanh Thao (チョーライ病院健診科看護師)
Ms. Tran Anh Thu (チョーライ病院健診科看護師)
- 実施期間： 2018年2月5日～2月7日 (3日間)
- 実施場所： 山王メディカルセンター他
- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
①人間ドックにおけるOCR問診、健診結果表
②人間ドック・内視鏡検査における看護師業務
③人間ドック・放射線検査における看護師業務
④人間ドック・採血業務および生化学検査
⑤人間ドック・婦人科検査



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
実際の日本人医師(神経内科医・循環器内科医)による丁寧な内科診察が行われている現場を見学し、予防医学における医師の役割について講義を行った。チョーライ病院の健診科では、「治療まで行われる健診」業務が行われているため、始めはスクリーニングのみが行われる健診業務に対する疑問も多く見られたが、ディスカッションを進めていく中で予防医学の考え方について同意が得られた。
ベトナムと日本における対受診者への接遇の考え方に差があるため、開業前の研修が重要となることも同意を得られた。模擬受診者による診察も体験し、効率的で丁寧な診察についても積極的に参加していたことから、ホーチミンにおいて高品質な日本式の人間ドックサービス事例として提供することが期待される。



運動CT検査見学



総合診断医の業務に係る研修



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
実際の現場に入り、日本人看護師と保健師による健診業務について講義を行った。また、安全かつ丁寧な健診業務が行われるための看護体制についても意見交換が行われ、ベトナムにおけるスタッフ不足の現状や看護管理体制についても活発にディスカッションが行われた。
日本では臨床検査技師が行う生理検査部門についても実機を使用して実習を行った。
人間ドックにおいて看護師が重要な役割を果たしていることの理解を深めることができたことから、ベトナムにおいて開設する人間ドックセンターにおける看護部門のキーパーソンとしての活躍が期待される。



人間ドックにおける看護師業務に係る講義



内視鏡検査における看護師業務見学



2 回目は、1 月に現地の人間ドックで総合診断し、最終的に評価をする医師 2 名を 6 日間受け入れました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院 研修員受入③

- 分 野： 予防医療(内視鏡検査)分野
- 研修員： <医師：1名>
Dr. Hoang Tuan Vu (チョーライ病院・内視鏡検査担当医師)
- 実施期間： 2018年1月29日～2月3日 (6日間)
- 実施場所： 山王メディカルセンター他
- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
①上部内視鏡検査・シミュレーターを使用した実習
②下部内視鏡検査・シミュレーターを使用した実習
③人間ドックの運用(帳票関係・所見用語の確認)
④日本型人間ドックにおける結果報告書
⑤ベトナムにおける日本型人間ドックセンターの運用について



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：
実際の内視鏡デモ機とシミュレーターを使用した内視鏡の手技について実習を行った。また、内視鏡検査による診断の技術について実際の症例(カルテ・写真)を使用しながら、正確な診断方法について意見交換を行った。ベトナムにおける内視鏡医は、日本の消化器の医師と役割が異なる部分もあり、特に診断方法については更なる現地での実習が重要であることについても合意した。
人間ドックの運用(帳票関係・所見用語の確認)など、実質的な業務内容についても踏み込んで教授したことから、ベトナムで開設予定の人間ドックセンターにおいて、今回の研修で習得した知識・技術が活用されることが期待される。



シミュレーターを使用した手技研修



正確な内視鏡診断に係る研修



3 回目は、内視鏡分野の医師の受け入れを 6 日間行いました。実際にシミュレーターを使い、内視鏡の手技に関する研修も実施しました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

成果指標：
専門家派遣・研修員受入で、それぞれ実施した研修受講者を対象とした各研修の主要テーマに係る知識レベルのアンケート調査(研修前と研修後)を、実施した。
※各研修の主要テーマについて、研修前及び研修後に自己評価による知識レベルを五段階評価(1:知識レベルが低い～5:高い)を確認し、結果については、以下のとおりであった。

1 専門家派遣

テーマ	実施前	実施後	知識向上率
1 内視鏡・放射線・神経内科・看護・人間ドック管理運営分野	2.81	3.90	+38.8%
2 建築・人間ドック管理運営分野	3.27	4.36	+33.3%
3 総合診断・看護・人間ドック管理運営分野	2.61	3.65	+39.8%
4 病理・臨床検査・物品管理・人間ドック管理運営分野	2.82	4.00	+41.8%
合計(平均)	2.88	3.98	+38.2%



リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

成果指標：
2 研修員受入

テーマ	実施前	実施後	知識向上率
1 日本型人間ドックにおける看護師業務：ドック運営全般	3.00	5.00	+66.7%
2 日本型人間ドックにおける総合診断医師業務	3.50	4.50	+28.6%
3 日本型人間ドックにおける内視鏡検査	3.00	5.00	+66.7%
4 日本型人間ドックにおける看護師業務：生理検査・内視鏡検査他	2.00	4.00	+100.0%
合計(平均)	2.88	4.63	+60.9%

上記のとおり、専門家派遣においては平均で38.2%の知識率向上、研修員受入においては平均で60.9%の知識率向上が図れたことから、今回の研修の成果を、2018年6月にベトナム(ホーチミン市)において開設予定の人間ドックセンターにおいて活用されることが期待できる。



成果指標ですが、研修実施前後でアンケート調査を実施し、5段階で知識レベルを評価しました。結果は、いずれも知識向上率ということで、専門家派遣については約 40%、研修員受け入れ

については約 60% と向上し、それなりの成果が上がったと考えております。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

今後の事業展開: 以下の事業等の実施に向けて調整

【ベトナム】

予防医療分野においては、ベトナムで本事業が開催する専門家派遣及び研修受入により、参加者が予防医療や人間ドックに対する知識や技術を得るし更には個々人の専門能力向上を図ることに加えて、今後は、いよいよ平成30年にベトナム・ホーチミン市に本学と国立チョーライ病院との共同事業で稼働の運びとなった日本型人間ドックセンターに於いて、係る人材が本事業における研修の取組みを通じて蓄積されてきた技術と知見を存分に発揮し、日本式のきめ細かく高品質のサービスを提供することを目指していく。

国際医療福祉大学

今後の展開については、この人間ドックセンターの活用に関心を持って、この研修の成果を活かすことを考えております。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ミャンマー: 国立リハビリテーション病院 専門家派遣

1. 分野: リハビリテーション分野
2. 派遣者: リハビリテーション医師 1名 角田 亘
理学療法士 1名 志村 圭太
作業療法士 1名 山口 佳小里
言語聴覚士 1名 大石 愛子
3. 実施期間: 2017年8月7日～8月9日 (3日間)
4. 実施場所: ミャンマー・国立リハビリテーション病院
5. 参加者(30名): 医師 3名、PT 24名、講師 3名
6. 主な研修内容(講義・実習):
【講義】脳卒中急性期リハビリテーションの考え方
【講義と実技】高次脳機能障害の作業療法、半側空間無視に対するアプローチ、
機能的な運動療法のため、肩関節障害に対する機能トレーニング、
膝関節障害に対する機能トレーニング、摂食嚥下障害の基礎知識、評価と介入、
脳卒中患者の歩行に対する機能的アプローチ

国際医療福祉大学

それからミャンマーでのリハビリテーション分野ですが、2017年7月に研修機材等の協議等を行いまして、現地に本学とミャンマーの国立リハビリテーション病院が共同で研修センターを設立しました。そちらに専門家派遣として医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、各1名を派遣しました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ミャンマー: 国立リハビリテーション病院 専門家派遣

7. 受講者30名を対象とした知識レベルのアンケート調査(研修前と研修後)

1) 研修前: 研修の項目のうち、どのテーマに関心があるかを確認するとともに、各テーマごとの研修前時点での自己評価による知識レベルを五段階評価(1: 知識レベルが低い～5: 高い)を確認。
研修後: 研修終了後に再度同じ設問(約52%の知識向上率)。

テーマ	セミナー前	セミナー後	知識向上率
1 脳卒中急性期リハ	2.7	3.8	+41%
2 高次脳機能障害	2.5	3.8	+52%
3 機能的運動療法	2.2	4	+81%
4 肩・肘・腕関節障害	2.5	4.05	+62%
5 摂食嚥下障害	2.16	3.7	+71%
6 脳卒中患者の歩行	2.78	4.06	+46%
7 全体	2.58	3.92	+52%

国際医療福祉大学

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ミャンマー: 国立リハビリテーション病院 専門家派遣

2) 全研修項目の終了後に新たに興味を持った研修テーマがあるかを確認したところ、脳卒中患者の歩行(3)、高次脳機能障害(4)、脳卒中急性期リハ(2)、機能的運動療法(6)、摂食嚥下障害(4)、肩・関節障害(1)の順番であった。
これら興味を新たにしたテーマの受講による理解度(わかり易さ)を研修前と同じく五段階評価で確認したところ、脳卒中急性期リハ4.14、高次脳機能障害4.25、機能的運動療法4.33、肩・関節障害3.66、摂食嚥下障害4.66、脳卒中患者の歩行4.35、全体平均が4.35となり、研修前にはさほど関心がなかったテーマにおいても、新しい知識習得への興味がでてきたといえる。

セミナー風景



国際医療福祉大学

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

8. 期待される成果: いずれのプログラムでも、受講者は非常に熱心で、毎講義後には時間が足りなくなるほど多くの質問があった。質問の内容は臨床に即した実務的なものが多く、学習したことをすぐに実践したいという意気込みを感じることができた。今回のプログラムでは実技を多く取り入れるように構成したが、どの演習においても、実技指導を動画で記録したり、講師に確認しながら繰り返し練習するなど受講者たちは大変熱心であった。「もっと時間をかけて詳細に学びたい」「実際の患者様にとのように対応したらいかがい」といった後からの希望があり、より発展的な支援のニーズがあるように感じられた。今回の研修で得た知識を日々の業務に活かし、ミャンマーのリハビリテーション分野の質の向上に少しでも役立つことができればと考えている。



研修参加者との集合写真

国際医療福祉大学

アンケート調査によるミャンマーでの知識向上率ですが、かなり上がったという結果でございました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

今後の事業展開: 以下の事業等の実施に向けて調整

【ミャンマー】

ミャンマーにおける本事業で開催する短期中期の研修によるリハビリテーションサービスの質向上に留まらず、これを契機として、フルスカラーシップ IUHW奨学生等での招聘等、本学の別途プログラムとの連携を実現することを課題に掲げてきたが、本年度本事業受講者が当該本学フルスカラーシップに応募し採用された。今後も、長期的に専門家育成へと繋げていくことによって、中長期的にも国際水準のリハビリテーションサービス提供のための人材育成と、リハビリテーションサービスの内容と質の両面の向上に貢献することを目指していく。

国際医療福祉大学

ミャンマーからの研修員の受け入れは、残念ながら今回は実施できませんでした。政府側の承認が遅れたことも要因としてあります。これに代わるものとして、長期の留学生の受け入れをここ数年実施しております。フルスカラーシップの留学生受け入れも実現しており、来年度2名の受け入れを予定しております。今回の事業に加えて、独自の取り組みも併せてご報告させていただきました。ご清聴ありがとうございました。